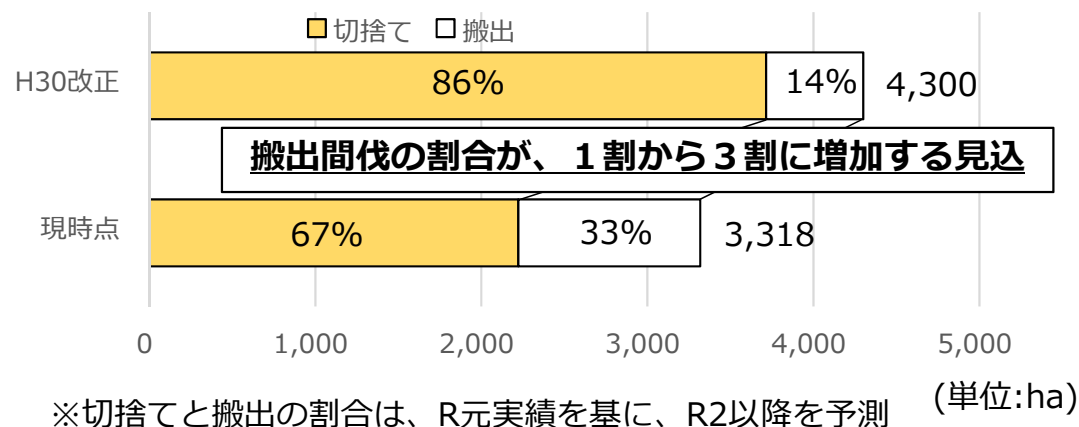
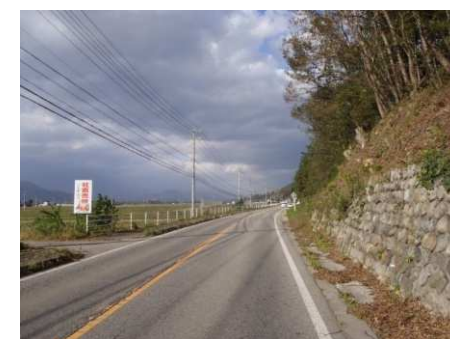
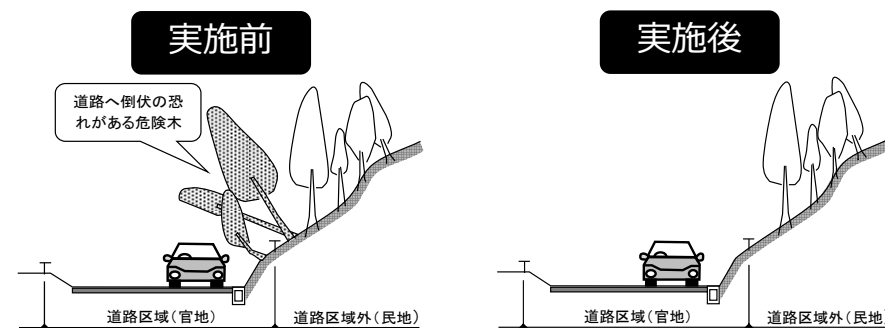


- **第3期森林税の税込額約40億円（第2期の基金残高含む）は、全額執行する見通し。**
- 理由は、最も大きな割合を占めているみんなを支える里山整備事業（防災・減災）に関して、間伐面積は目標を下回る見込であるものの、想定よりも搬出間伐（補助単価が切捨間伐よりも高い）が可能な森林が多かったことから、当初予定していた森林税活用額（約12億円）を執行する見通しであること。
- 加えて、喫緊の課題となっているライフライン沿いの倒木対策など、期間中に新たに発生した課題に対して、追加的に事業を実施していることなどによる。



《切捨て間伐と搬出間伐の面積割合》

【ライフライン沿いの倒木対策 イメージ図及び写真】



基本方針：「防災・減災」及び「住民等の利活用」のための里山等の整備 **12.7億円**(当初)→**16.5億円**(今回改正(案))

基本方針では、「**木材の有効活用**」「**豪雨時の流木災害防止**」の観点から、条件的に可能な箇所では、搬出間伐を推進することとしている。

区分	単価(森林税のみ)
切捨	約30万円/ha
搬出	約50万円/ha